

◆介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

(高齢者の生活と健康福祉に関する調査)

1. 調査の目的

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	美祢市に在住する高齢者の日常生活の状況や健康状態等を把握し、今後の高齢者保健福祉施策に活かすために調査を行いました。
------------------	--

2. 調査の設計

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査地域 美祢市 ● 調査対象 令和2年1月1日現在、65歳以上の方のうち、要介護認定を受けていない方。 ※ 要支援認定を受けている方は対象。 ● 調査方法 郵送による配付・回収 ● 調査期間 令和2年1月30日～令和2年2月28日 ● 抽出方法 無作為抽出
------------------	---

3. 回収結果

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	発送 2,000 人 / 回収 1,411 人 / 有効回収率 70.6%
------------------	---------------------------------------

4. 調査結果

(1) 運動器の機能低下

[リスク判定方法]

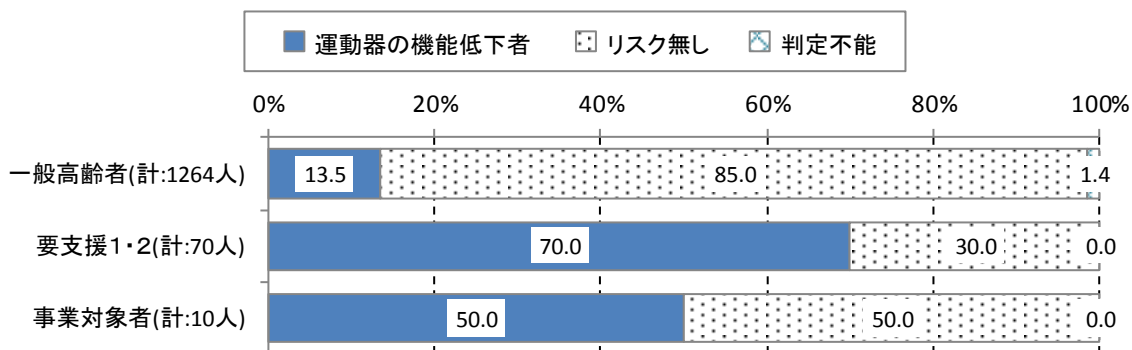
No.	設問内容	選択肢
①	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
②	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
③	15分位続けて歩いていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
④	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
⑤	転倒に対する不安は大きいですか	1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

上記の設問のうち、3問以上該当する選択肢（上の表の網掛け箇所）が回答された場合、運動器機能の低下している高齢者と判定されます。

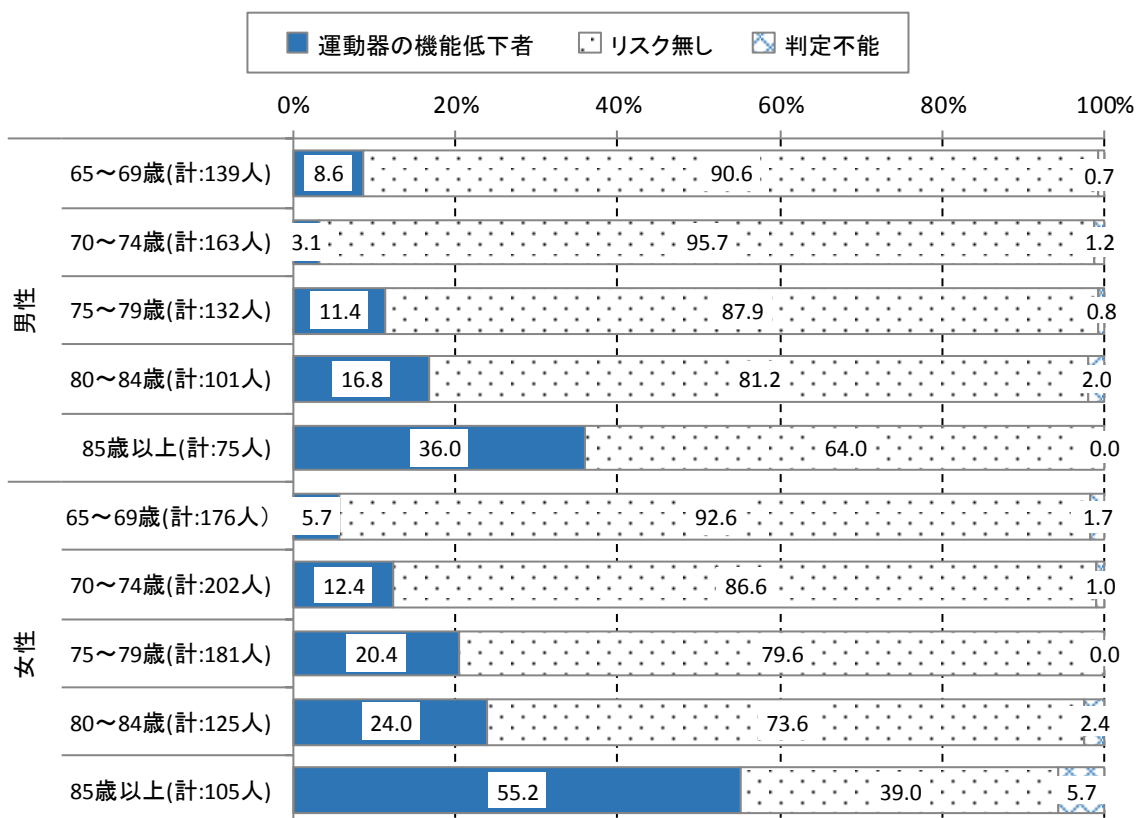
要支援状態によってリスク者の割合は大きく異なり、要支援1・2では7割がリスク者となっています。

性別・年齢別にみると、男女ともに年齢階層が高くなるに従ってリスク者の割合が高くなる傾向にあります。特に女性は年齢が高くなるに従って急激にリスク者の割合が高くなり、85歳以上では55.2%の人がリスク者となっていることが分かります。

図表 1 要支援状態区分別クロス



図表 2 性別・年齢別クロス



(2) 転倒リスク

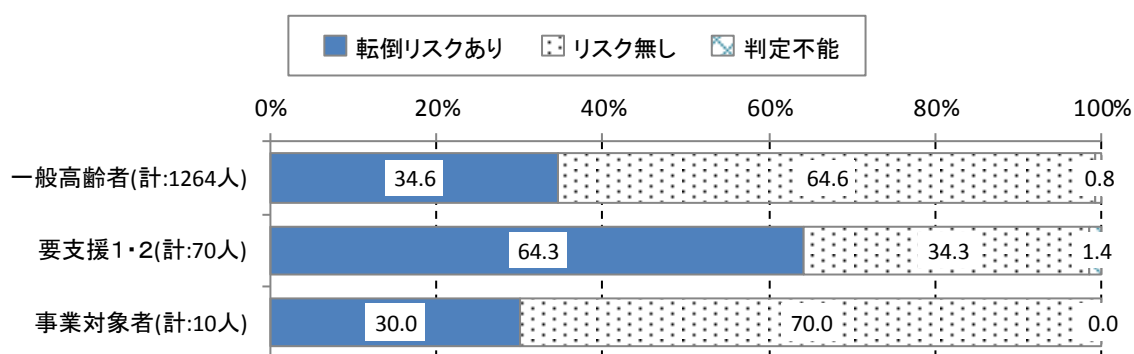
[リスク判定方法]

No.	設問内容	選択肢
④	過去1年間に転んだ経験がありますか	1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

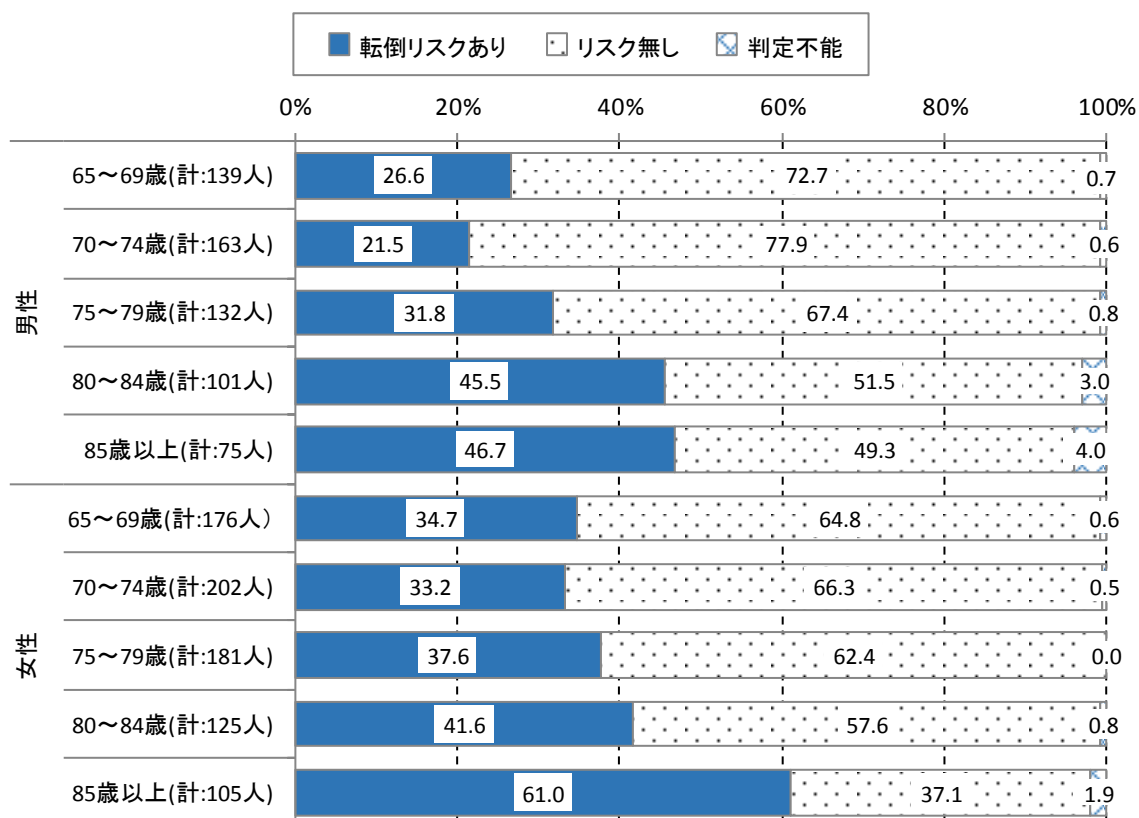
④で「1. 何度もある」または「2. 1度ある」の選択肢を回答された場合、転倒リスクのある高齢者と判定されます。

要支援状態によってもリスク者の割合は大きく異なり、要支援1・2では64.3%がリスク者となっています。性別・年齢別にみると、男女ともに年齢階層が高くなるに従ってリスク者の割合が高くなる傾向にありますが、女性では80歳以上で過半数が転倒リスク者となっています。

図表 3 要支援状態区分別クロス



図表 4 性別・年齢別クロス



(3) 閉じこもり傾向

[リスク判定方法]

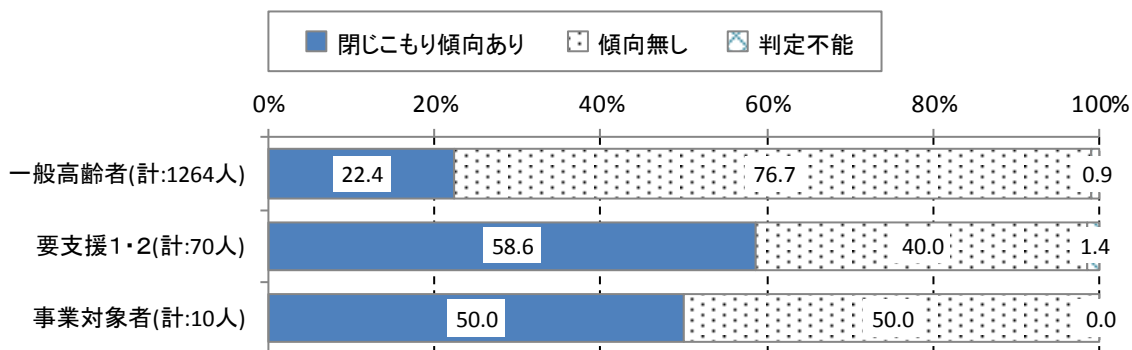
No.	設問内容	選択肢
⑥	週に1回以上は外出していますか	1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2～4回 4. 週5回以上

⑥で「1. ほとんど外出しない」または「2. 週1回」の選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者と判定されます。

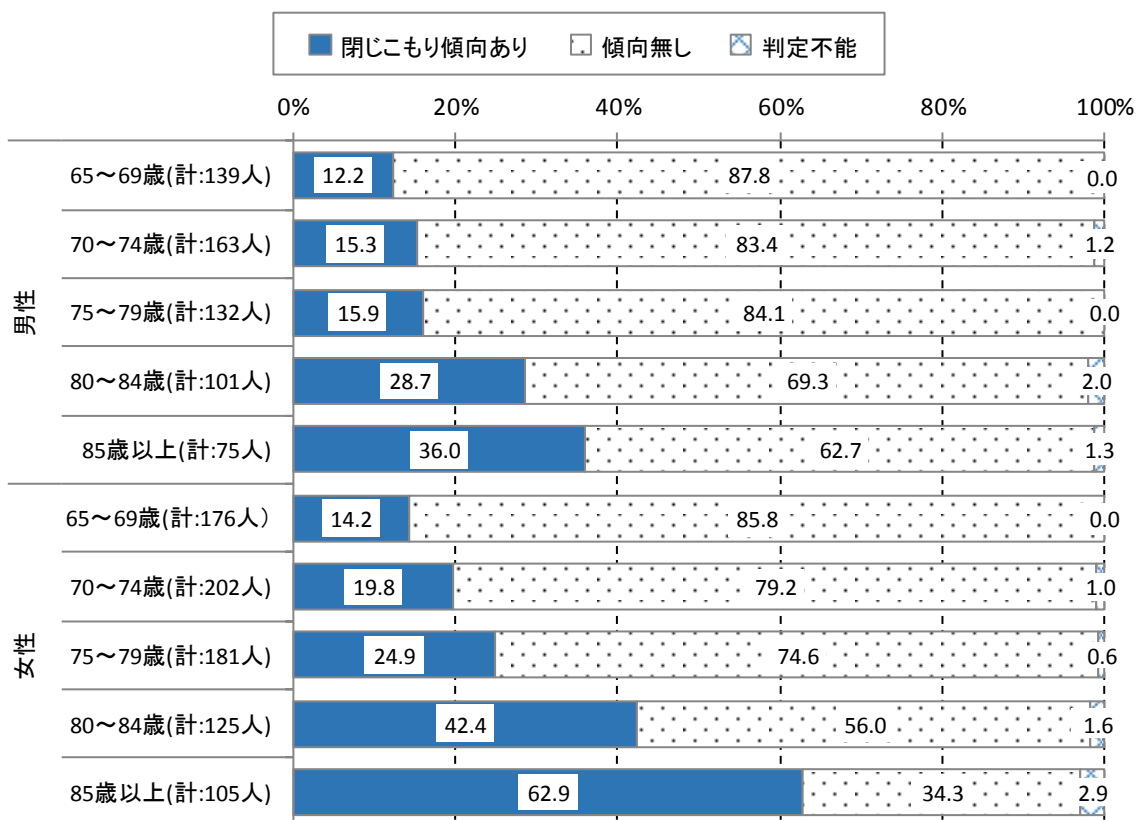
要支援状態によってリスク者の割合は大きく異なっており、要支援1・2のリスク者の割合は58.6%となっています。

性別・年齢別にみると、男女ともに年齢階層が高くなるに従ってリスク者の割合が高くなる傾向にあります。

図表 5 要支援状態区分別クロス



図表 6 性別・年齢別クロス



(4) 低栄養の傾向

[リスク判定方法]

No.	設問内容	選択肢
①	身長・体重	() cm () kg →BMI 18.5 以下
②	6ヶ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか (オプション項目)	1. はい 2. いいえ

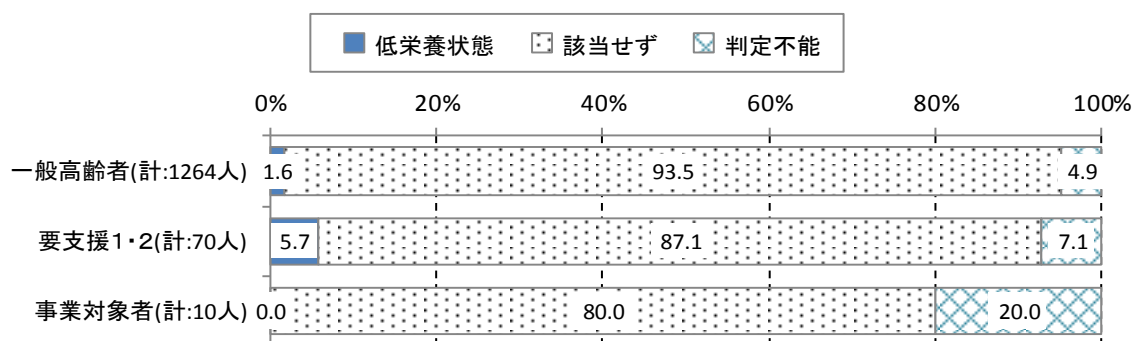
身長・体重から算出されるBMI (体重 (kg) ÷ {身長 (m) × 身長 (m)}) が 18.5 以下の場合、低栄養が疑われる高齢者になります。

低栄養状態を確認する場合は国が示す必須項目 (身長・体重を問う設問) のみでは不十分であるため、本市では、別途示されたオプション項目 (②) を追加して調査しました。①と②の両設問ともに該当した場合は、低栄養状態にある高齢者になります。

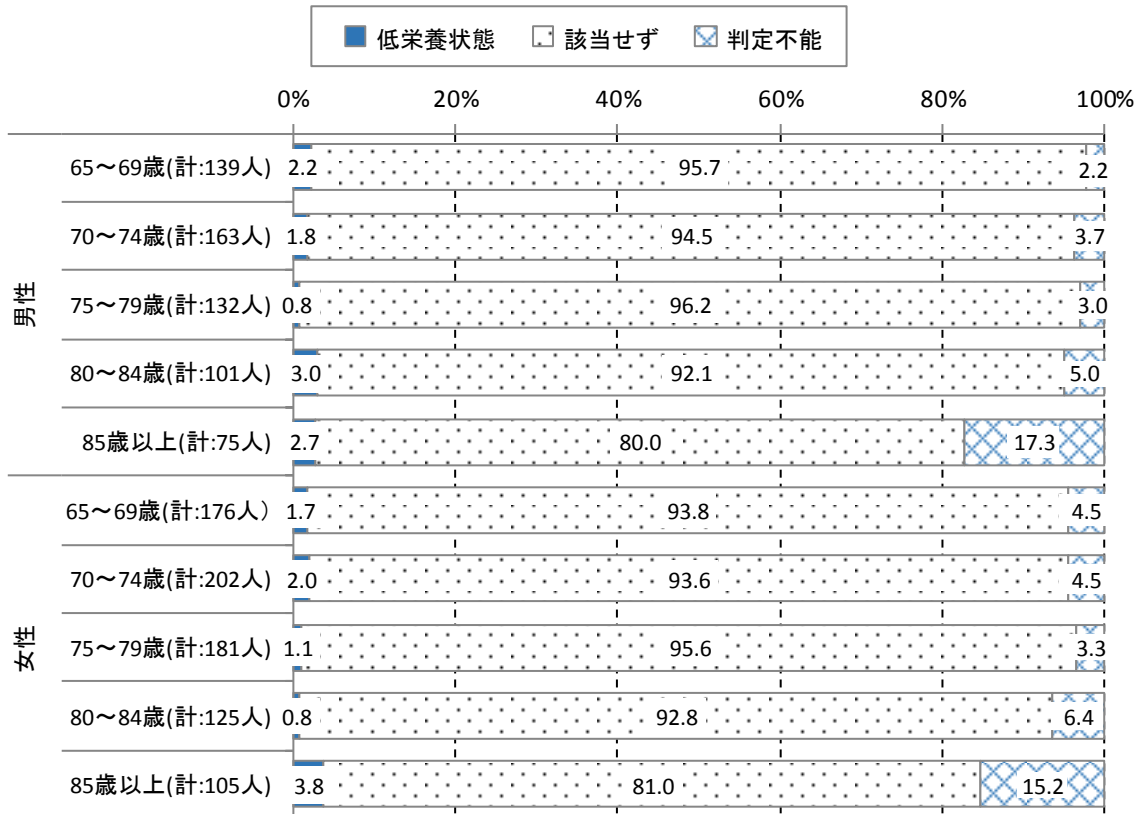
性別・年齢別にみると、男女ともに年齢階層によって大きな傾向はみられません。

※低栄養の判定には現在の身長及び体重を記入していただく必要があります。他の設問と比べて無回答が多くなる傾向にあります。無回答がある場合は判定不能となりますが、年齢階層が高くなるに従っておおむね判定不能の割合が増えていることが分かります。

図表 7 要支援状態区分別クロス



図表 8 性別・年齢別クロス



(5) 口腔機能の低下

[リスク判定方法]

No.	設問内容	選択肢
③	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい 2. いいえ
④	お茶や汁物等でむせることがありますか (オプション項目)	1. はい 2. いいえ
⑤	口の渇きが気になりますか (オプション項目)	1. はい 2. いいえ

③で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者になります。

口腔機能の低下を確認する場合は国が示す必須項目(③)のみでは不十分であるため、本市では、別途示されたオプション項目(④及び⑤)を追加して調査しました。

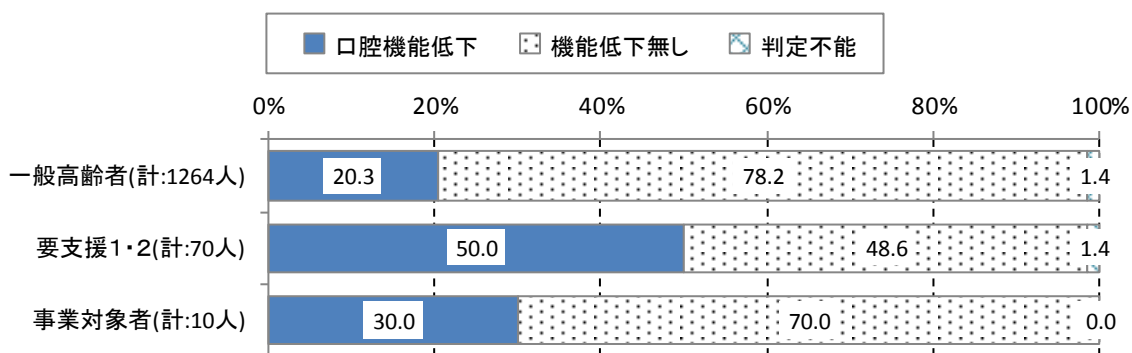
嚥下機能の低下を把握する「お茶や汁物等でむせることがありますか」、肺炎発症リスクを把握する「口の渇きが気になりますか」と併せ、③～⑤のうち2設問に該当した場

合は、口腔機能が低下している高齢者と判定されます。

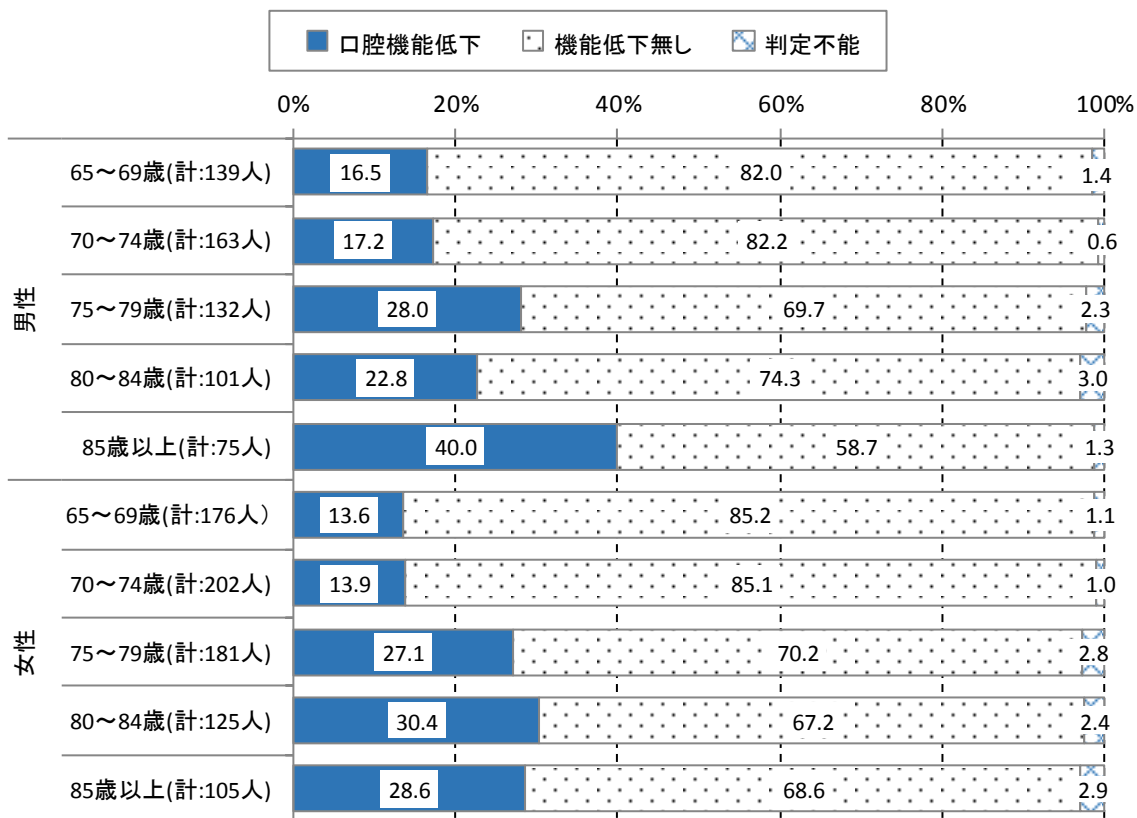
要支援状態によってリスク者の割合は大きく異なり、要支援1・2では50.0%がリスク者となっています。

性別・年齢別にみると、年齢階層が高くなるに従ってリスク者の割合がおおむね高くなる傾向があります。

図表 9 要支援状態区別クロス



図表 10 性別・年齢別クロス



(6) 認知機能の低下

[リスク判定方法]

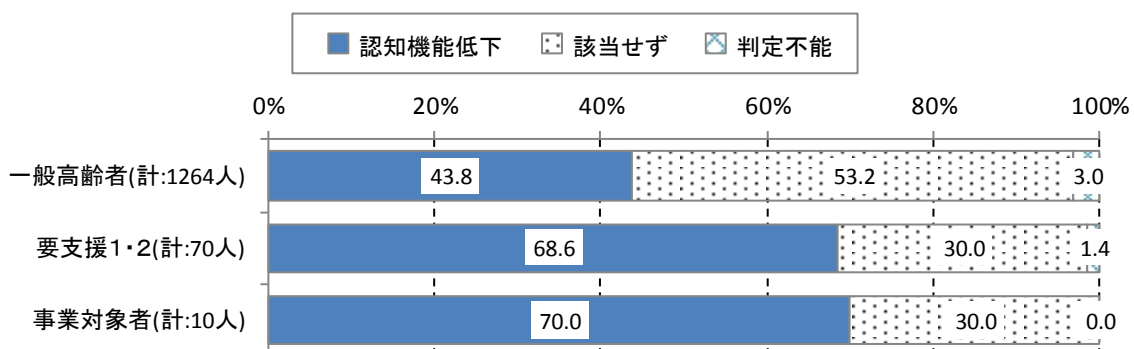
No.	設問内容	選択肢
①	物忘れが多いと感じますか	1. はい 2. いいえ

①で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、認知機能の低下がみられる高齢者と判定されます。

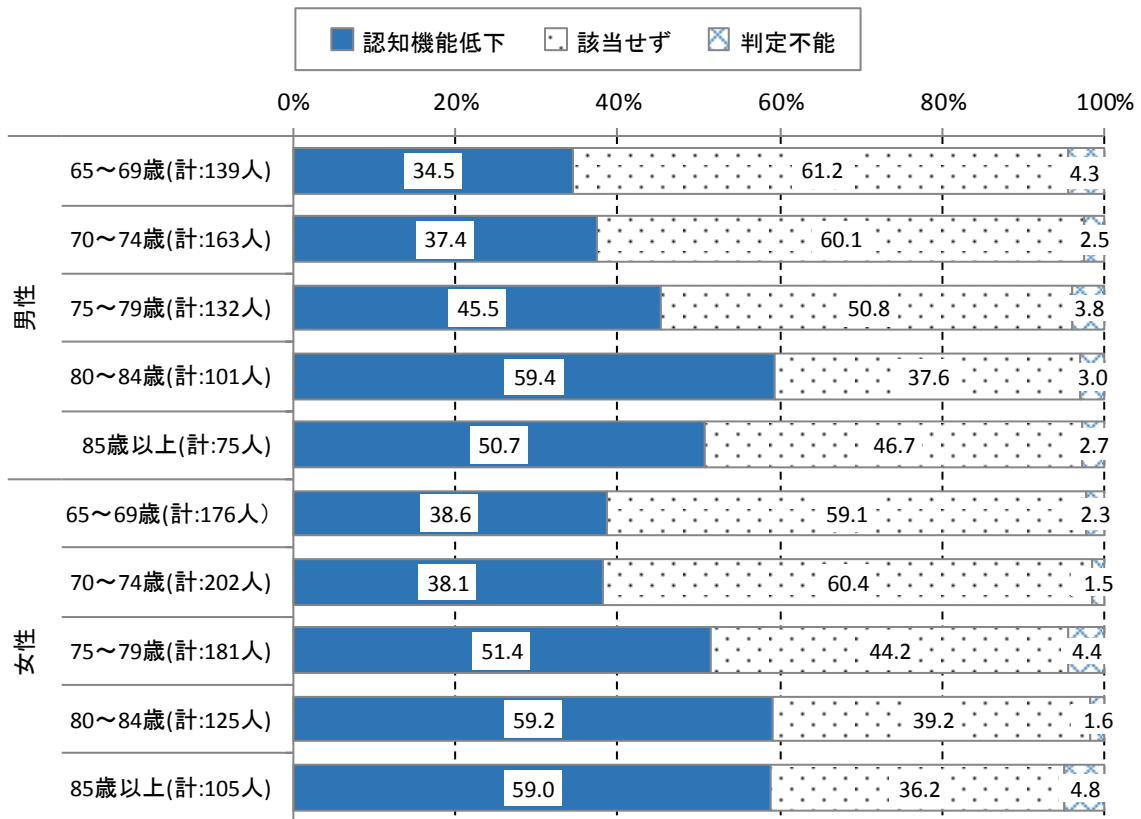
要支援状態によってリスク者の割合は大きく異なります。要支援1・2では、リスク者の割合が6割を超えています。

性別・年齢別にみると、男女ともに年齢階層が高くなるに従ってリスク者の割合がおおむね高くなる傾向にあります。

図表 11 要支援状態区分別クロス



図表 12 性別・年齢別クロス



(7) IADLの低下

[IADLの判定方法]

No.	設問内容	選択肢
②	バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
③	自分で食品・日用品の買物をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
④	自分で食事の用意をしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
⑤	自分で請求書の支払いをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
⑥	自分で預貯金の出し入れをしていますか	1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

「1. できるし、している」「2. できるけどしていない」と回答した場合を1点として、5点満点でIADLを評価します（5点を「1. 高い」、4点を「2. やや低い」、3点以下を「3. 低い」とします）。

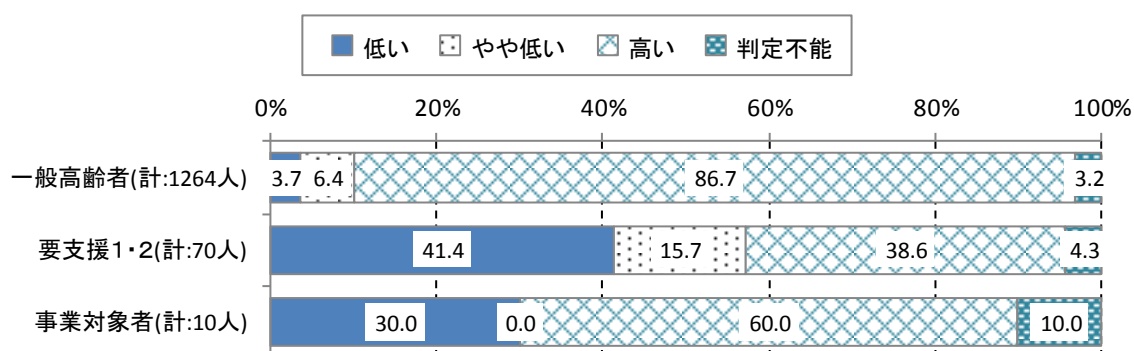
※IADLとは

IADL (Instrumental Activities of Daily Living) とは、「手段的日常生活動作」とも言われ、電話の使い方、買い物、家事、移動、外出、服薬の管理、金銭の管理など、日常生活動作ではとらえられない高次の生活機能の水準を測定するもの。

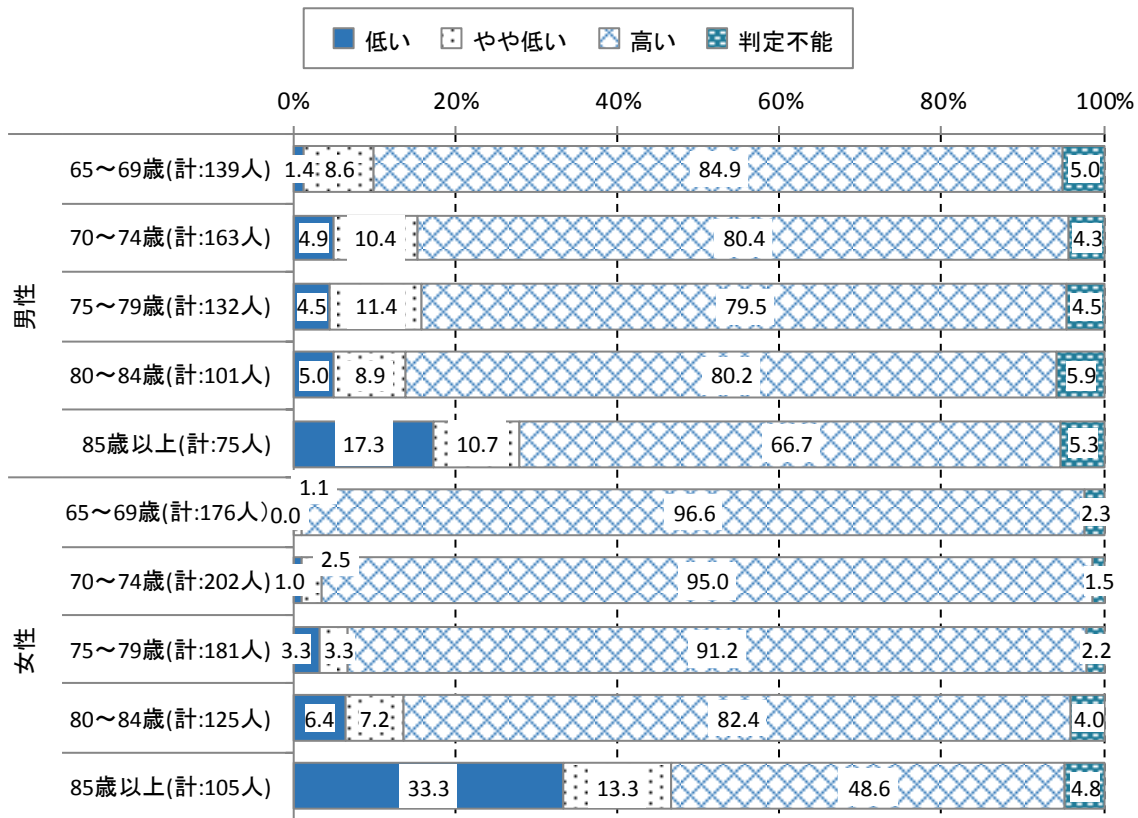
要支援状態になることによってIADLが「やや低い」「低い」人の割合は高くなる傾向にあり、要支援1・2では57.1%となっています。

性別・年齢別にみると、年齢階層が高くなるに従ってIADLが「やや低い」「低い」人の割合はおおむね高くなる傾向にあり、女性の85歳以上ではIADLが「やや低い」「低い」人の割合が46.6%となっています。

図表 13 要支援状態区分別クロス



図表 14 性別・年齢別クロス



(8) うつ傾向

[リスク判定方法]

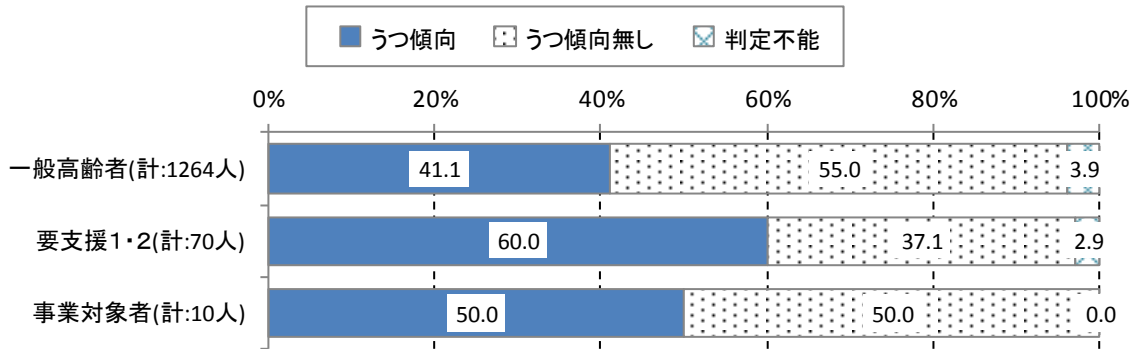
No.	設問内容	選択肢
①	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか	1. はい 2. いいえ
②	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか	1. はい 2. いいえ

①、②でいずれか1つでも「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、うつ傾向の高齢者と判定されます。

要支援状態によってリスク者の割合は大きく異なり、要支援1・2では60.0%がリスク者となっています。

性別・年齢別にみると、年齢階層によって明らかな傾向はみられませんが、女性の85歳以上では50.5%とうつ傾向にある高齢者の割合が半数を超えています。

図表 15 要支援状態区別クロス



図表 16 性別・年齢別クロス

